監督：ロバート・ドーンヘルム（『戦争と平和』『ラ・ボエーム』） 出演：マルコ・ボッチ、マッシモ・ポッジョ、ミケーレ・アルハイク、ジュゼッペ・チェデルナ、ジョルジョ・ルパーノ、アルベルト・モリナーリ
2012年 / イタリア / イタリア語 / 120分 / カラー / アメリカン・ビスタ / ドルビーデジタル / 原題：K2- La montagna degli / 字幕翻訳：吉川美奈子 / 配給：Republic-A

© 2012 REDFILM, RAI Fiction & TERRA INTERNATIONALE FILMPRODUKTIONEN GmbH

世界最難関の高峰「K2」初登攀の栄光の陰に隠された、
地上8,000メートルの真実が、60年の時を経てついに明らかとなる。

WWW.MTK2.NET

20世紀を代表する登山家ヴァルテル・ボナッティ、失われた名誉とは？

これは野心、情熱、そして成功の代価の物語だ

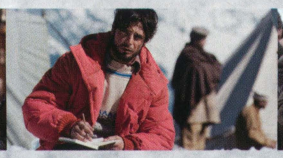
（アカデミー賞®ノミネート監督）
―ロバート・ドーンヘルム

世界第2位の標高を誇る高峰K2（8611m）。それは、世界最高峰のエベレストよりも登頂が圧倒的に困難で「非情の山」とまで呼ばれる。1954年、その名誉ある初登頂を果たしたのは、イタリア人のアキッレ・コンパニョーニ、リーノ・ラチェデッリ。本来であれば、その偉業を達成した二人は国を挙げて祝福されるはずだった。しかしイタリアは「登頂は隊全体の名誉」として、長い間その名前を公表しなかった。その陰で、50年以上に渡って初登頂をめぐりクライマー達の思惑、そして名誉を賭けた訴訟が繰り広げられていた。果たしてK2初登頂の栄光の陰に何があったのか？ 1954年のイタリア隊によるK2制覇の実話に基づいて描かれた、本格山岳ドラマである本作。主演に、イタリアで圧倒的人気を誇る若手実力派俳優マルコ・ボッチを迎え、アカデミー賞ノミネート監督のロバート・ドーンヘルムが圧倒的な映像美とスケールで描く。初登頂60周年記念の今、その真実がついに明らかとなる。

K2とは？

中華人民共和国の新疆ウイグル自治区とパキスタンのギルギット・バルティスタン州との国境にある、カラコルム山脈に属する標高8611mの山。
エベレストよりも厳しい気候条件、急峻な雪崩、滑落の危険性などから登頂が最も困難とも言われている。2010年までの時点で、エベレストの登頂成功者は延べ5104人、K2の登頂成功者は延べ302人。遭難者の数も多く、4人に1人が命を落とすという。

STORY 1954年、イタリア・ミラノのデジオ教授はエベレストよりも過酷と言われる世界第2の高峰K2の初登頂を果たすため、最強のアルピニスト・チームを集結させた。強靭な足腰と精神力を持つ青年ボナッティは、初登頂への強い決意を固め、厳しいトレーニングを積み、最年少ながら選ばれし12人の一員に選ばれ、K2制覇に向けて登頂を開始する。行く手には様々な困難が待ち受けていたが、クライマー達の闘志と結束力で乗り越えていく。高所でも無類の強さで仲間を支えるボナッティだったが、最終的にデジオが標高8000メートルから先の「デスゾーン」への挑戦に選んだのは、コンパニョーニだった。しかし、ボナッティに初登頂の偉業を達成されることを危惧したコンパニョーニは、ボナッティと合流する予定地よりも遥かに高い位置にキャンプを設け、妨害を企てる。何も知らず、必死の思いで酸素用ボンベを荷揚げしていたボナッティであったが、予定地に到着しても何もなく、疲れ切った高所ハイポーターとともに必死のビバークを余儀なくされる。そしてコンパニョーニと彼に選ばれたラチェデッリは、ボナッティが荷揚げした酸素ボンベで、K2登頂へ出発するのであった・・・。



監督：ロバート・ドーンヘルム（『戦争と平和』『ラ・ボエーム』）出演：マルコ・ボッチ、マッシモ・ポッジョ、ミケーレ・アルハイク、ジュゼッペ・チェデルナ、ジョルジョ・ルバーノ、アルベルト・モリナーリ
2012年 / イタリア / イタリア語 / 120分 / カラー / アメリカン・ビスタ / ドルビーデジタル / 原題：K2- La montagna degli / 字幕翻訳：吉川美奈子 / 配給：Republic-A

© 2012 REDFILM, RAI Fiction & TERRA INTERNATIONALE FILMPRODUKTIONEN GmbH

WWW.MTK2.NET

5/10（土）より、登攀（とうはん）ロードショー

特別鑑賞券 ¥1,500（税込） 絶賛発売中!!

有楽町イトシア イトシアプラザ 4F
テアトルシネマグループ
ヒューマントラストシネマ有楽町
03（6259）8608 www.ttcg.jp

5月より

梅田スカイビル（空中庭園）タワーイースト 3F
テアトルシネマグループ
シネ・リーブル梅田
06（6440）5930 www.ttcg.jp